

令和2年度第3回ISO上層委員会報告会

第113回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏) (2020)
ANSI (米) (2020)
BSI(英) (2020)
DIN(独) (2020)
JISC(日) (2022)
SAC(中) (2022)

グループ2

ABNT(ブラジル) (2021)
KATS(韓) (2022)
SCC(カナダ) (2022)
SIS(スウェーデン) (2020)
UNE(スペイン) (2021)

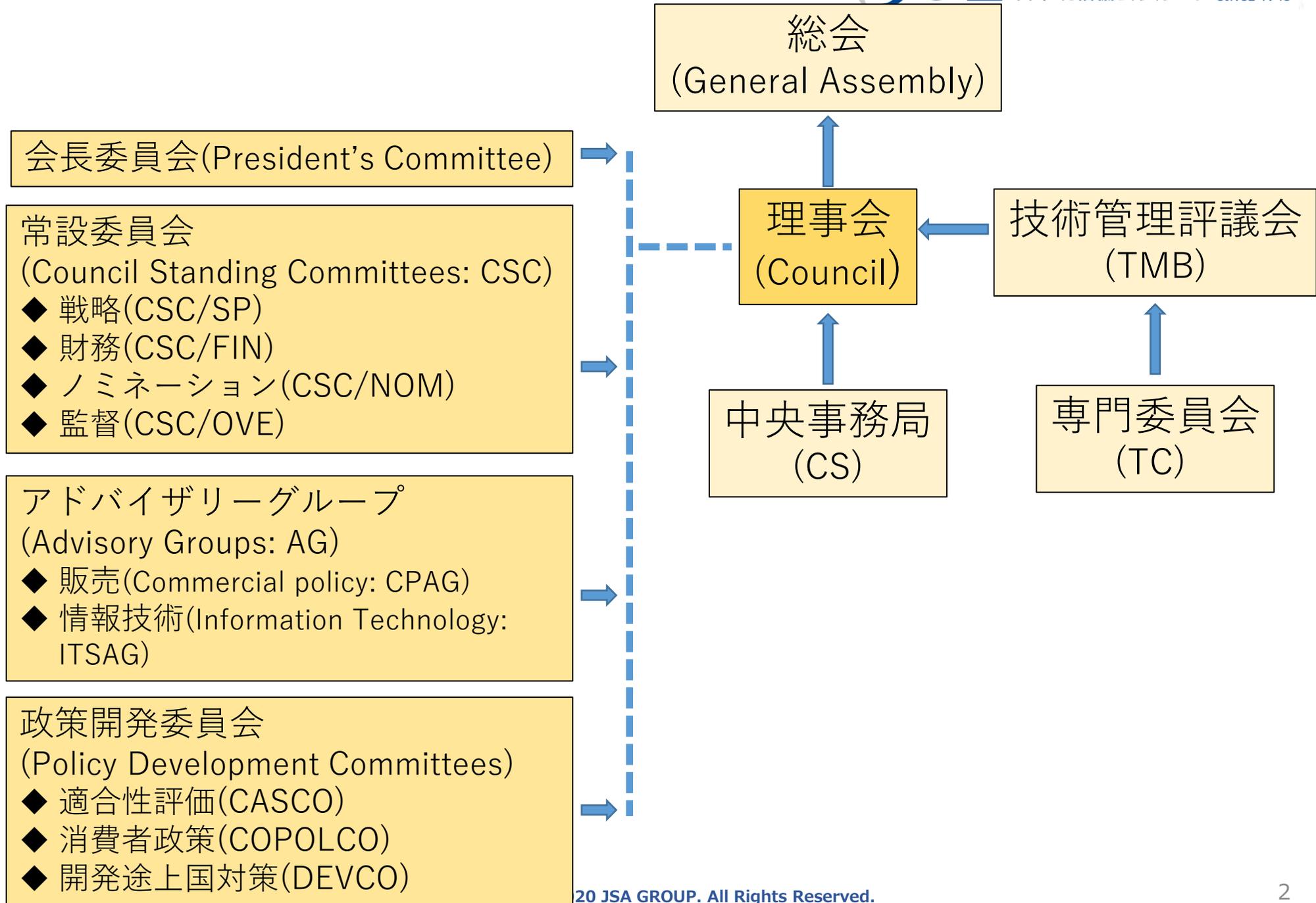
グループ3

BSN(インドネシア) (2020)
ESMA(アラブ首) (2022)
IRAM(アルゼンチン) (2021)
KAZMEMST(カザフスタン) (2020)
SOSO(サウジアラビア) (2021)

グループ4

HZN(クアチア) (2021)
INACAL(ペルー) (2022)
INTECO(コスタリカ) (2020)

ISO Council (理事会)



第112回 ISO理事会 及び 関連会合

2020年9月17日	
14:00-15:00(日本時間：21:00-22:00)	CSC/OVE
2020年9月18日	
10:00-12:00(日本時間：17:00-19:00)	会長委員会
2020年9月21日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:00)	理事会
2020年9月22日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:30)	理事会
2020年9月23日	
13:00-16:00(日本時間：20:00-23:30)	理事会

第112回 ISO理事会

- 理事会及び常設委員会の会議が、2020年9月17日から23日にかけて、ウェブ会議で開催された。
- 理事会は議題数を考慮し、3日間にわたって開催された。
- 時間的な制約等を考慮し、議事を重要/緊急の項目に絞り（カテゴリB）、会議中は議論/確認のみとし、決議は行わず、後日電子投票を行い、正式に決議する。その他の項目(カテゴリA)は情報提供のみ、あるいは必要な場合、電子投票を行う。
- 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する。

議題2～COVID-19の影響及び事務総長報告

<主な報告事項>

- COVID-19の影響/対応
 - ウェブ会議の活用 –参加者の増加
 - 医療機器関連のISO規格の無料閲覧
 - ISO 22301:2019に基づく事業継続計画（BCP）を実施。Minimum Viable Level of Service (MVLS)という考え方で、必要最低限の活動以外に支出を凍結
 - 会費支払いは堅調だが、ウェブストア売上げ及び会員からの著作権料収入は減少
- 主な活動
 - 地域グループの会合へのウェブ参加、COPOLCO総会、DEVCO会議等への参加
 - 他の国際組織との関係強化 – OECD、IEC、WSC、ICC
- 事務総長の2020年目標
 - 2020年戦略実施計画の展開、地域関与ポリシーの作成、発展途上国に対する作業計画の資金 等々

議題3.2～ISO戦略2030 その1

<これまでの経緯>

- 2019年2月に理事会でワークショップを開き議論を開始。ステークホルダーコンサルテーション(2019年7-8月)、ブレイクアウトセッション(2019年9月)を経て、「ISO戦略2030」を完成。

https://www.iso.org/files/live/sites/isoorg/files/events/2020/ga2020/documents/03a_Draft_ISO-Strategy-2021-2030_EN.pdf

- ISO総会での投票(2020年9月24日～11月24日)

<今後の予定>

- CSC/SPでTFを結成し、「実施計画」、「測定枠組み(Measurement Framework)」を作成中。2021年1月1日にリリース予定。
 - ISO戦略2030をどのように実施していくか、進捗をどのように評価するか
- ISO中央事務局のコミュニケーションチームと連携し、コミュニケーション計画を作る

議題3.2～ISO戦略2030 その2

変化の原動力 経済： 貿易と不確実性 技術： デジタルの影響 社会： 変化する期待と行動 環境： 持続可能性の緊急性	ISOの構想 私たちが活動を行う理由 →	生活をより楽で安全で良いものにするため			実施計画 特定のプログラム、プロジェクト及び進捗を監視するための成功の評価基準が含まれる
	ISOの使命 私たちの活動と活動方法 →	私たちの会員及びその利害関係者を通じて、国際的な課題に対応する国際規格について合意するために人々を集める。ISO規格は持続可能な未来を達成するために、国際貿易を支援し、包括的で公平な経済成長の原動力となり、イノベーションを促進し、健康と安全を推進する。			
	目標 私たちの使命と構想を実現させるために達成が必要なこと →	 どこでも使用されるISO規格	 世界的なニーズを満たす	 すべての声に耳を傾ける	
	優先事項 私たちの目標の達成のためにリソースを集中させる必要があるところ →	規格の便益を実証する 使用者のニーズを満たすためにイノベーションを行う	ISO規格を市場が必要とするときに提供する 今後の国際標準化の機会を捉える	能力開発を通じてISO会員を強化する ISOシステムにて包括性と多様性を促進する	

議題3.4 ISO地域関与ポリシー(Regional Engagement Policy: REP) その1

<背景>

- ISOの地域関与活動の試み
 - ISO地域関与イニシャティブ（シンガポール事務所）を設置（2013年）
 - アフリカのISOメンバーを支援するパイロットプログラムを開始（2017年）。メンバー国より中央事務局に出向
- 上記を基に、事務総長が地域関与ポリシーを作成。地域関与の3つのモデル（中央事務局から各地域を支援するモデル、地域事務所モデル、両者の混合）を検討

<主な報告、意見>

- 事務総長が地域関与ポリシー最終案を報告、承認された。(決議39/2020)
 - どの地域にも平等な支援、費用対効果という観点から、中央事務局から直接支援を行う
 - 中央事務局に「地域支援専門家チーム」を設置し、4地域（アフリカ/アラブ、アメリカ/カリブ、アジア/太平洋、ヨーロッパ/中央アジア）をそれぞれ担当
 - 地域支援専門家チームはデジタルツールを最大限に活用。地域メンバーのコミュニティとも効果的に連携

議題3.4 ISO地域関与ポリシー(Regional Engagement Policy: REP) その2

<主な報告、意見>

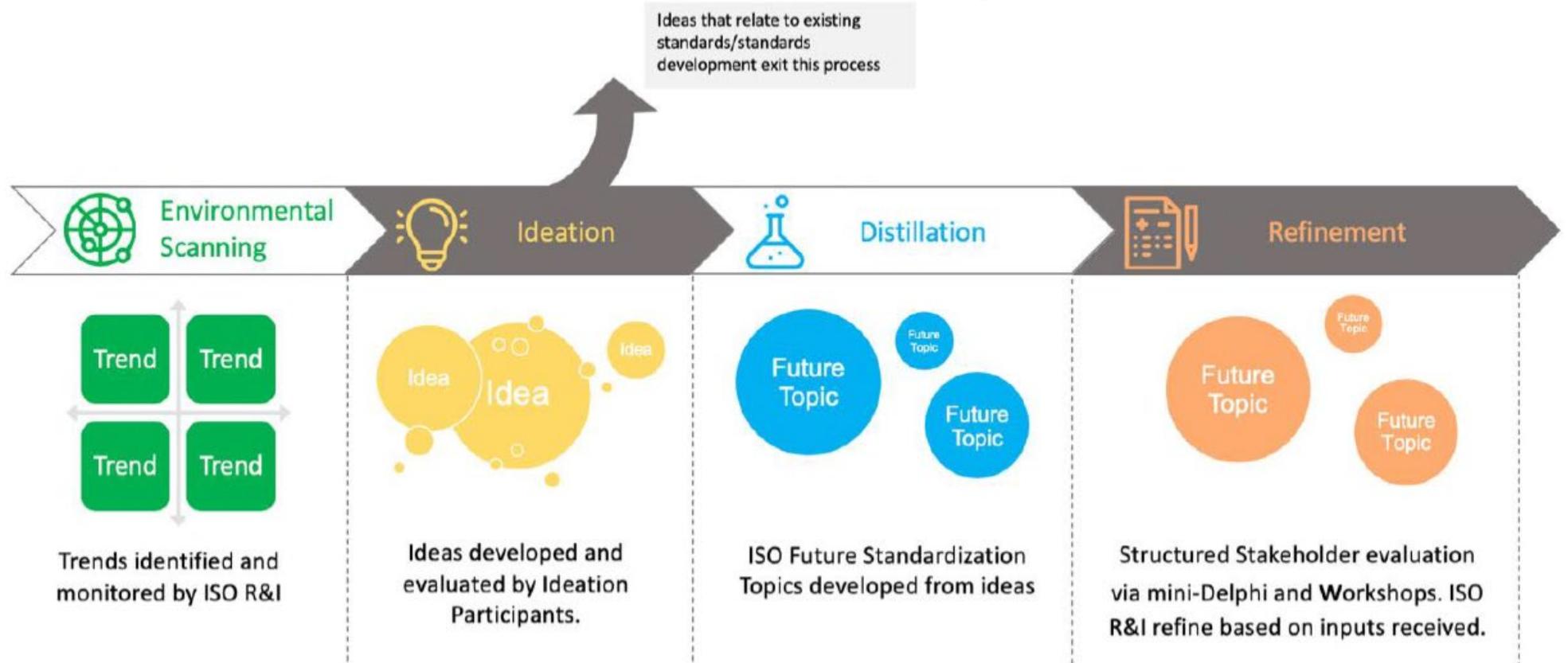
- ISO地域関与イニシャティブ（シンガポール事務所）の成果が高く評価された。
 - 2013年より、アジア太平洋地区のISOメンバーの支援活動
 - 6つのKPIに対し目覚ましい成果を上げたと評価（地域内メンバーの規格開発への参加増加、メンバー間の交流が活発化、キャパビル資金調達への貢献等）
- これまでの成果を精査した上で、新しい地域関与ポリシーに対し、KPIと実施計画を策定する。さらに、地域関与ポリシーは2年後に見直しをする
- シンガポール事務所の閉鎖及び円滑な移行のための計画を速やかに立てる

議題3.6 ISO標準化展望枠組み(ISO Standardization Foresight Framework) その1

<背景>

- ISO中央事務局の調査イノベーションユニット（R&Iユニット）では、2019年より「展望（foresight）」の調査を開始。ISOが新しい標準化の機会を特定するのを支援するため。
 - 「展望（foresight）」とは、体系的/システムティックな方法で将来に目を向けるプロセス。現在起こっている変化、将来起こりうる変化を捉え、組織を“reactive”から“proactive”にする
 - 「展望（foresight）」とは～予想(forecast)との違い
 - 予想(forecast)：トレンドに反応し、来るものに備える
 - 展望(foresight)：別の将来を予測し、望ましい将来を作り上げるべく貢献する
- ISO 標準化展望枠組み（ISO SFF)によって、
 - 将来の標準化のトピックスを体系的なプロセスで特定するプロセスをつくる
 - マーケットニーズをよりproactiveにとらえる
 - トピックスの機が熟したら迅速に標準化を進める
 - より多くのステークホルダーの関与を可能とする

議題3.6 ISO標準化展望枠組み(ISO Standardization Foresight Framework) その2



フェーズ I :
環境スキャンニング
 技術や社会のトレンド、顕著な発展をとらえる

フェーズII :
アイデア化
 標準化の新しい分野/トピックスに関するアイデアを収集

フェーズIII :
蒸留
 アイデアの選定、優先順位付け

フェーズIV :
精製
 将来の標準化トピックスの評価
 白書発行

議題3.6 ISO標準化展望枠組み(ISO Standardization Foresight Framework) その3

〈主な報告、意見〉

- 標準化のトピックスが出てくるのを受動的に待つのではなく、能動的に捉えていくことは重要であるとの受け止めから、SFFは有益であると合意。ただし、漠然とアイデア募集をすることにならないか等、実効性が危ぶまれた
- 既存のISOシステムは、ISOメンバーの国家標準化機関を介して標準化開発に参加する形態。一方で、SFFは広くステークホルダーの参加を目指すものだが、ステークホルダーは国家標準化機関を介さず直接アイデア出しをすることが可能。この点に多くの理事会メンバーが懸念
- 2021年にパイロット運用を行い、フェーズII(アイデア化)はワークショップ形式で行う。ISOメンバーをパイロットに広く参加するように促す。(決議41/2020)
- またIECなどの他の機関が既に収集している情報はできるだけ活用する

議題3.7 Machine Readable Standard(機械可読規格) についての TMB報告

<背景>

- 機械可読規格に関するTMB戦略諮問グループが最終報告を理事会に提出（2020年6月）
- TMBで最終報告をレビューし、ISO SMARTの実装を検討するための推奨事項をとりまとめ（SMARTを評価し、SMARTの影響/機会を理解すること、それをもとにプロジェクト提案を行うこと等）
 - SMART - Standards Machine Applicable, Readable and Transferable

<主な報告、意見>

- SMART規格の重要性を十分認識し、SMARTの評価を早急に行い、実装に向けて検討を進めるべき
- IEC等の利害関係者も招き、戦略的な方向性を検討するためのワークショップを行う（2021年2月理事会）
- ISO戦略2030の実施計画に、SMART開発支援戦略プロジェクトを含める

議題4.1 キャパシティビルディング資金調達

<背景>

- 発展途上国のISOメンバー支援の重要性
 - 国際規格の開発は、全メンバーが活発に参加してこそ。発展途上国がISOの活動に加わることにより、ISO規格の世界的な重要性が増す。
 - ISO戦略2030の優先事項の1つ、「キャパシティビルディングを通じてISOメンバーを強化する」
- 発展途上国に対するキャパシティビルディング
 - 5か年計画を立て、発展途上国のキャパビル支援。現在は3期目(2016-2020年)、成功裏に終了する見込み。
 - 次期計画(2021-2025年)を最終調整中。コロナ禍でデジタルツールの活用が進んだことを受け、バーチャル、バーチャル&対面の混合の2つのやり方でキャパビルを提供する

<主な報告、意見>

- 次期計画に必要な資金の確保に懸念
 - 支援団体への運動の結果、2022年6月までの資金は確保できる見込み
 - 支援団体に頼りすぎるもののリスクを考え、ISO自らが拠出することを検討すべきではないか。長期に安定して資金調達するための方針/戦略がないのではないか
- JISCの貢献 - Fund in Trustへの拠出に対し顕著な貢献として謝辞

カテゴリA～DEVCO議長及びTMBメンバー選挙

<DEVCO議長>

- 現DEVCO議長の任期が2020年末で終了をするため、候補者の推薦が求められた。セルビア、ジンバブエ、イランの3名の候補者に対し投票を行い、下記の方が選ばれた。
 - Ms Mojdeh Rowshan TABARI (イラン)

<TMBメンバー>

- TMBメンバーは、グループ1の6席、グループ2の5席、グループ3の4席の合計15席で構成される。
- 2023年任期で、グループ2の1席、グループ3の4席に対し、それぞれ2名、6名の立候補があった。
- 選挙結果
 - グループ2：オーストラリア
 - グループ3：ブラジル、ノルウェー、アルゼンチン、マレーシア

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2021年2月24－25日 バーチャル
- 2021年6月9－10日 京都
- 2021年9月22日 ロンドン
- 2022年2月23－24日 ジュネーブ
- 2022年6月9－10日 ストックホルム
- 2022年9月21日 シドニー

<総会>

- 2021年9月23－24日 ロンドン
- 2022年9月22－23日 シドニー
- 2023年9月20－21日 アブダビ

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp